



読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしましょう。

木材高騰で出荷量増

白糠町有林間伐早め対応

釧路管内

米国などでの住宅需要が高まり輸入木材の価格が高騰する「ウッドショック」の影響で、釧路管内の道産材の出荷量が高水準で推移している。道産材の引き合いが強まり、出荷量は前年同月と比べ5月以降、2〜6割増。こうした中、白糠町は地元製材会社の要望に応え、町有林の間伐開始を例年の9月から5月に繰り上げることで、**官民が連携**して高まるニーズに対応している。

(佐竹直子)

道の調べでは、管内の本含む3社が加盟する白糠木年度の製材出荷量は、主力材工業協同組合は今春、町の「エンマツ・トドマツ」が5月は前年同月比21%増。その後も6月が61%、7月が21%、8月が57%、それぞれ前年を上回った。トドマツは木肌の白さが輸入材と似ており、全道的に受注が急増しているという。

白糠町の増井林業(片岡福太郎社長)は4月以降、受注が前年同月を30%ほど上回り、原木の仕入れが追いつかなくなった。同社を

道産材の需要拡大につなげたい」と話す。

管内の木材関連事業者でつくる釧路地方林業会によると、管内は木が豊富だが、伐採には手間がかかり計画量を急増やすことは難しいという。入手しづらくなった原木を求め、オホーツク管内など遠方まで仕入れに向く事業者もある。

釧路地方森林・林業・林産業活性化推進議員連盟協議会の石田正義会長(白糠町議会副議長)は「白糠の



白糠町の町有林に山積みされた間伐材。白糠木材工業協同組合に出荷される

(町提供)

ような官民連携は管内ではまれ。参考にしてもらいたい」と話し、釧路地方林業会の山崎正明会長は「道産材の出荷を増やすには、原木を乾燥させる機材の導入や人材確保で行政の支援が必要」と訴える。

『北海道新聞』2021年10月6日(水) 朝刊(釧路・根室版)

- (1) とありますが、木材が高騰している理由を簡単に説明しなさい。

- (2) とありますが、この記事では、具体的にどのようなことを指して官民連携といっているのですか。

- (3) 道産材の出荷を増やすためには、どのような課題がありますか。
